

「Boys be ambitious」に続く言葉

K . M .

10月からドラマ『Dr.コトー診療所 2006』が始まった。2003年放送版も海外研修前で余裕がないはずだったが...途中からはまってしまった。このドラマが始まるにあたり、1つ困ったことが生じた。NHKの『プロフェッショナル 仕事の流儀』と放送時間が重なることである。『プロフェッショナル』は録画するなど毎回欠かさず視聴している。人生の教科書のような番組であり、いつも大きな力をもらっている。この番組を視たことのある人には共感していただけると思うが...、本当に、前に進んでいくための“大きな力”がもらえるのである。

虚構(ドラマ)をとるか現実(ノンフィクション)をとるか 答えは意外と簡単であった。プロフェッショナルは水曜の深夜に再放送されるため、木曜の本放送ではDr.コトーを視るか録画することにした。

初回のDr.コトーの放送時間は出張の移動中だったため、先日録画を視た。最後の、中学入学を控えた剛洋(小6)への五島医師からのお祝いの手紙の一部(下記)に心を打たれた。

「Boys be ambitious」という言葉を知っていますか？ そして、そのあとに何が続くか。

少年よ、大志を抱け。お金のためではなく、私欲のためでもなく、
名声という空虚な志のためでもなく、
人は如何にあるべきか、その道を全うするために、大志を抱け。

と、続くのです。

私も初心に返り、一吃音者として、志を全うしていきたいと思えた。

10月1日のKさんの結婚式に際しても、吃音研究の道に進みたいと思った初心を振り返ることができた。式では「吃音」がオープンに語られ、将来吃音研究の道に進みたいというKさんの決意を聞くこともできた。ご両親もその志を心から支持されていてとても嬉しく思えた。Kさん、奥様に心よりお祝い申し上げたい。

さて、現実の私であるが、こここのところ職場では責任ある仕事を複数任されていることもあり、吃音症状はより顕著である。自身の吃音を冷静に見て、いまはやむを得ないと思いつつも、もう少し抑制されればと願う自分もいる。このように生きている自身を吃音のある方々に伝えていくことこそ大切なものかもしれない。「Boys be ambitious」に続く言葉を胸に、2006年度後期も前に進んでいきたい。